多田の里　だ　よ　り



多田小学校通信　　令和４年６月28日号　児童数配布

「身近な危険を知る」



　多田小学校南館４階の教室から南を見ると、猪名川の流れが見えそうで見えません。今、猪名川に架かる橋を渡ると、竹やぶを切り開き、大型重機を用いて工事を進めている光景が目に入ります。

　多田小学校は、多田盆地にあります。そして猪名川がこの盆地を作り出したのであり、昔から地域の人にとって重要な存在でした。多田小学校では、毎年３年生が環境体験学習の一環として、こんにゃく橋のたもとでアユの放流体験をさせてもらっています。その川原を見ると様々な大きさの石が広がっています。これが大量の水とともに上流から運ばれるのですが、そんな自然の怖さが想像しにくいほどの穏やかな風景です。

　さていよいよ７月に入り夏休みがやってきます。ここ数年は全国的な大雨の被害が報道されています。猪名川でも昔、氾濫したことが幾度もありました。だから河川工事が進められているわけですが、多田小学校の子どもたちとは、この自然の脅威を当たり前のこととして理解し、事前準備を怠らないようにしていきたいと思っています。大雨が降ったらどうするか。学校では、川西市教育委員会作成の基準に従い、学校の休校や、下校の判断を行います。ぜひこの時期に一度その基準をご家庭でも確認してください。「今日はがっこうやすみだ！」と思いがちですが、休みにするほど危険性が高いということを再確認したいと思います。

　そして多田の里には川だけでなく、里山や田畑がたくさん存在しています。そこにも危険性が潜んでいることを忘れてはいけません。例えばヘビ。かまれても大丈夫なものとかまれればすぐに病院へ行かなければならない毒ヘビがいます。マムシにヤマカガシにかまれると危険です。アオダイショウやシマヘビとの違いが判らないならば、ヘビに触らないのが得策になります。子どもたちは好奇心旺盛です。すぐに捕まえたくなります。でもその前にしっかりと勉強することが大切です。学校でも安全教育を実施しています。ご家庭でも自然の危険性について時々話してみてください。そして、できれば子どもたちと一緒に、川や里山へ出かけてみてください。実際に体感しながら学ぶことは大事です。梅雨から夏休み、多田盆地にはたくさんの楽しみがありますが、隣り合わせのように危険性も潜んでいます。危険性を知りながら自然と触れ合うのが最も安全です。大人と一緒に学びながら遊ぶことが安全対策になり、次の世代へと繋いでいくことになると思うのです。

今後の予定について

７月１日現在　各学年の予定は学年だよりをご覧ください





熱中症対策について

　６月末ですでに３０℃を超える気温を記録しています。梅雨明けに向けての気象は併せて湿度も高くなり、暑さ指数（ＷＢＧＴ）が３１℃（気温ではありません）を超え、運動は原則中止という基準になることも考えられます。学校では（ＷＢＧＴ）を観測しながら、休み時間の過ごし方を伝えています。遊び前の給水、帽子の着用、遊び後の給水が必要です。日光と気温と湿度と私たち自身の発汗によって暑さと付き合っていくことになります。教室はエアコンにより快適になりましたが、外は年々厳しい状況になっています。梅雨明けまでもう少しかかるはずですが、梅雨が明けてしまうとさらに厳しい状況が予想されます。帽子にタオルに十分な給水と状況に応じたマスクの着脱（運動や登下校時、人との距離を保てる、話をしないなど）、コロナと向き合いながらの熱中症対策です。暑いときは無理をせず過ごすよう、子どもも大人も安全第一で判断していきましょう。